

信心獲得章（五帖第五通）

信心獲得すというは、第十八の願をこころうるなり、この願をこころうるというは、南無阿弥陀仏のすがたをこころうるなり、このゆえに、南無と歸命する一念の処に、發願回向のこころあるべし、これすなわち、弥陀如来の凡夫に回向しますこころなり、これを大經には、令諸衆生功德成就と説けり、されば無始以来、つくりとつくる悪業煩惱を、のこるところもなく、願力不思議をもつて消滅するいわれあるがゆえに、正定聚不退の位に住すとなり、これによりて、煩惱を断ぜずして、涅槃をうといえるはこのこころなり、この義は、当流一途の所談なるものなり、他流の人に對して、かくのごとく沙汰あるべからざるところなり、よくよく、こころ

うべきものなり、

あなかしこ あなかしこ

信心獲得章の大意

信心を得るというのは、第十八願を心得るということであり、それはとりもなおさず、南無阿弥陀仏のいわれを心得るということとです。

私たちが、南無と阿弥陀仏に帰命する心は、私たちをお救いくださる阿弥陀仏の本願のはたらきなのです。これがすなわち、如来が凡夫に如来の徳を回向されるということとです。それを『大

經』には、「令諸衆生功德成就」と説かれています。はかりしれない昔からつくり続けてきた罪が、本願のはたらきによって消滅するわけがあるので、浄土に往生することに定まって決して退かない位につくというのです。「煩惱を断せずして涅槃をう」というのはこのことです。

この教えは、浄土真宗だけが説くものですから、他の宗派の人に対していうべきことではありません。十分心得るべきことです。